

認証評価機関の平成22年度評価結果に対する改善報告内容
(平成26年7月25日付け提出の改善報告書概要)

		指摘事項(助言)	改善報告内容
1	理念・目的	全学において学部・研究科ごとの人材養成に関する目的その他教育上の目的が学則等に定められていないので、改善が望まれる。	<p>医学部においては、平成24年度に「札幌医科大学医学部の教育課程、授業科目履修方法、試験及び進級取扱いに関する規程」に人材養成に関する目的(「教育課程の基本的考え方」)を記載した。</p> <p>保健医療学部及び大学院医学・保健医療学研究科においては、平成25年度に「札幌医科大学保健医療学部授業科目履修方法、試験及び進級取扱いに関する規程」及び「札幌医科大学大学院医学研究科授業科目履修方法及び単位修得認定等に関する規程」、「札幌医科大学大学院保健医療学研究科授業科目履修方法及び単位修得認定等に関する規程」に、「教育課程の基本的な考え方」を追加し、人材養成に関する目的等を記載した。</p>
2	教育内容	医学部及び保健医療学部において、学生による授業評価結果の活用が各教員に委ねられており、授業の改善に生かす組織的な取り組みがない。特に、医学部においては、評価結果に関する学生への公表が十分ではないので、改善が望まれる。	<p>平成22年度に、学長を委員長とする「札幌医科大学教育評価委員会」を設置し、評価結果の活用について検討を行い、平成23年度には、ベストティーチャー賞を導入するなど組織的な取組を進めた。</p> <p>また、授業評価の公表については、平成22年度から大学ホームページに両学部の集計結果を掲載し、学生及び教員への公表を行っている。</p>
3	方法(教育方法等)	全学において、シラバスの授業内容の記載に精粗が見られる。また、成績評価基準が明確に示されていない科目が見られるため、改善が望まれる。	<p>医学部においては、平成22年度のシラバスから、評価方法項目を統一した上で、基準に%表記を取り入れることにより、成績評価基準を明確化している(平成22年度の評価受審時に追加資料として提出済み)。平成26年度のシラバスについても、科目間における授業内容や成績評価基準の記載量の精粗をなくすよう作成した。</p> <p>保健医療学部においては、平成26年度のシラバスから、成績評価基準が明確になるような様式で作成し、科目間における授業内容や成績評価基準の記載量の精粗をなくすよう作成した。</p> <p>医学研究科においては、平成26年度のシラバスから、博士課程と修士課程それぞれの課程の特性を考慮した上で、成績評価方法や成績評価基準が明確になるような様式で作成し、科目間における授業内容や成績評価基準の記載量の精粗をなくすよう作成した。</p> <p>保健医療学研究科においては、平成26年度のシラバスから、成績評価基準が明確になるような様式で作成し、科目間における授業内容や成績評価基準の記載量の精粗をなくすよう作成した。</p>
4	教育内容・方法(教育研究交流)	全学において、外国人留学生の受け入れ制度や短期留学助成制度があるものの国際的な教育研究交流の実績が少ないので改善が望まれる。	<p>各学部において、継続して私費外国人留学生を募集している。入試による外国人留学生の受入れに関しては受験希望者の動向によるところが大きいものの、平成23年度には、各研究科において、募集要項等について従来の英語版ホームページを充実させ、優秀な外国人留学生の受入れを推進するため広報活動の充実に取り組んだ。</p> <p>短期留学助成については、平成24年度から対象者に研究医を加えるなど、研修機会の拡充も図っている。</p> <p>海外校との協定については、アルバータ大学をはじめ既に協定を締結していた海外協定校との交流を引き続き促進した。</p> <p>平成23年度には韓国カトリック大学と新たに交流協定を締結し、双方の医学部の臨床実習学生の派遣・受入による学生の交流促進に努め、協定締結以降、毎年相互に2名の学生の交流を行っている。</p> <p>また、平成22年度には保健医療学部の研究交流促進を図るため香港理工大学と学部間交流の覚書を取り交わした。</p> <p>学生の医学交流への支援としては、(財)医学教育振興財団で実施している「英国大学医学部での臨床実習のための短期留学」に応募があった医学部学生を財団へ推薦し、合格した学生を英国大学へ派遣し充実した臨床実習の機会を与えた。</p> <p>「研究室(基礎)配属」及びMD-PhDの海外研修をメルボルン大学において実施し、国際水準の医師、医学者の育成に努めた。</p> <p>さらに、海外から臨床実習等の申し入れがあった医学生を国際交流学生として受け入れ、学生の交流の推進に取り組んでおり、近年は増加傾向にある。</p> <p>国際社会への支援として、保健医療学部において、JICAの委託による中南米の日系人への技術協力を通じて国づくりに貢献することを目的とした研修員(現地の理学療法士、作業療法士の資格を持ち臨床経験がある者)を受入れるとともに、仏語圏アフリカ諸国の教育機関等で看護師や助産師の教育に従事している指導者を対象とした母子保健研修を受け入れた。</p> <p>また、コースチャ基金によるサハリン州医師の受入を通じ、海外医療従事者への臨床実践機会の提供、人材育成、技術指導等の支援に取り組んだ。</p>
5	施設・設備	教育・研究施設は老朽化が著しく、特に東棟については安全面から見ても改築整備の必要性が高い施設となっているが、耐震改修が進んでいない。現在、施設設備についての検討を進めている貴大学および北海道において、早期の対策を講じるよう改善が望まれる。	<p>北海道においては、本学からの要望を踏まえ、平成24年3月に「札幌医科大学施設整備構想」を策定し、平成25年度以降、順次、施設の改築整備をすることとした。</p> <p>特に老朽化が著しい東棟を含む教育棟や研究施設については、現在地において改築をすることから、2期に分けて整備することとし、第1期は平成26年度から29年度までを予定しているところである。</p>